



白陵会事務局 〒676-0827 高砂市阿弥陀町阿弥陀2260(白陵高等学校内) TEL.079(447)1675(代) FAX.079(447)1677 URL:http://www.hakuryokai.jp E-mail:info@hakuryokai.jp

### 創立50周年 来年に迫る



このたびの東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申しあげます。さて、吾等が母校、白陵は、来年、目出度く創立五十周年を迎えようとしています。

半世紀前の昭和三十八年、故三木省吾先生は、戦後の学制改革で潰えた旧制高等学校の特色を今日に生かすべく、ご自身が学ばれた旧制姫路高等学校に範をとり、その寄宿舎「白陵寮」から校名を名付け、光輝ある校章を受け継ぎ、学校法人三木学園、白陵中学校、白陵高等学校を創設されました。

三木省吾先生は、ご生前、次のように述べられています。「白陵と申しますのは、旧制姫路高等学校の出身者の有志が集まって、旧制高校のような学校を創ろうと云うことで発足した学校です。昔は、高校に入るのに十倍とか二十倍とかの競争があり、なかなか高校に入らなかったのですが、その代わり、入りましたら殆ど自分の希望に従って、東大、京大へと進んでおりました。高校の成績の善し悪しで大学を選んだ覚えは無かったですね。そう云う良き時代の良き高校があったのに、それが戦後の学制改革で潰れてしまいました。旧制一高の基礎を創られた木下廣次校長という方は、籠城主義といまして、一高の生徒は全員寮に入らなければならぬとしました。その時分は、明治の中頃で、色々と西欧から文物が入ってきて、木下先生は、世の中は軽佻浮薄とお考えになったわけですから、そこで、生徒を寮に入れることで、社会との行き来をひとまず断ち切り、生徒は自分の学問に対する態度なり、人生観なりをつくるのに専念すべきだとしたわけ

です。人間形成に非常に大切な時期に籠城させて、そこで人間形成や学問の基礎をつくるということをしていたのが旧制高校で、そうした高校に回帰したいということで創ったのが私どもの学校です。ところが、この頃は昔と違って、高校に入りさえすれば、自分の希望する大学に進めるといふのんびりとした時代ではありませんね。ですから、大学を考えたときには、どうしても大学に入る方策を考えねばならないのです。そうしますと、旧制高校のような大らかなところも残したいし、今の厳しい時代の入学試験にも打ち勝つていかなければならないという二つの命題を私どもの学校は貫っておることになります。非常に難しいことではあります、それを何とかやって行こうとしているのが白陵でございます。」

これが、「研究と訓練」、「独立不羈」、「正明闊達」を校是として、将来深遠なる洞察力と、高い学識を持ち、事に当たって責任感と勇猛心ある人材たるの基礎を培うことを本旨とし、その存在理由を、「品性によって立ち、学問研鑽において第一級の学校」としてきた所以です。爾来、五十年、卒業生も一期生から四十六期生の七八七二名を数え、多方面において活躍中であり、校舎も新しく建て替えられ、週刊ダイヤモンド(六月二十五日号)の「大学合格力&医学部合格力全国高校ランキング」では第七位にランキングされるなど、醇乎たる校風を築きながら大きく発展してきました。混迷を続ける我が国にあって、いよいよ、白陵生がその本領を発揮してこれからの日本に貢献することが期待されています。

私たちの大きな財産となっております。

本日は、懐かしい恩師や旧友との再会に心が弾んでおります。楽しい企画で懐かしの一時を演出いたしますので、心ゆくまで語り合ってくださいと思います。

残念ながら本日欠席された方々から、いただいたメッセージは、会場後方に掲示させていただきます。お待ちしております。

白陵会では、今後とも会員相互の親睦と母校の充実発展を図るため、精一杯の活動を展開してまいります。

この総会も、次回は、神戸あたりで開催できないかと考えております。

また、最後になりましたが、本会では、このたびの母校の校舎建替という一大事業に際し、母校の健全な発展を願う卒業生の気持ちを集約して目標額を5000万円と定め、会員の皆様にご継続して寄付のお願いをすることによって母校支援の輪を広げたいと念願しております。

会員諸氏の一層のご支援とご協力を切にお願い申し上げます。本日、ご出席の皆様方のますますのご活躍とご健勝をお祈り申しあげ、総会の御挨拶とさせていただきます。

### 白陵会総会ご挨拶



会長 沼田好道

二〇一〇年十一月二十一日  
本日は、五年ぶりに二〇一〇年白陵会総会を開催いたしましたところ、ご遠方より多数お越しくださいまして誠に有難うございます。

平素、本会活動にご協力を賜っておりましてとあわせて、心より厚く御礼申し上げます。

また、本日は、三木理事長先生、斎藤校長先生はじめ、多くの先生方にご来臨賜っておりまして、高いところからではございますが心より厚く御礼申し上げます。

さて、今回の総会は、学校側の全面的な協力を得て、新校舎の見学を兼ね、久しぶりに母校で開催させていただくことになりました。

久しぶりに校門から校舎への道路を歩かれた感じは、いかがでしたでしょうか?

懐かしの校舎が取り壊され、新しい校舎に建て替えられると聞いたときには、幾分寂しい気持ちになりましたが、三木一正

理事長が卒業生の想いを斟酌されて、新校舎の外観は旧校舎と大変よく似たデザインを採用されたことにより、裏山を背景とした校舎全景は昔と変わっていない錯覚に陥ります。しかし、一歩中に入ると、内部は旧校舎の倍以上の大きさで、明るく広々とした教室が機能的に配置され、廊下や昇降口にも大変余裕があり、内部の様相は一変しています。

更には、前庭に設けられたシエルピンスキー四面体をモチーフに作成されたモニュメント「春暉」の美しさに驚き、大階段越しに、新校舎を間近に見上げた時は、深い感激を覚えました。

このように、他校に類を見ない緑豊かな自然と見事に調和したこの新校舎は、将来にわたって、先輩、後輩それぞれに、誇らしく感じることの出来る学舎となるでしょう。

白陵会では、「総会の開催」、「会報、Alma Mater 白陵の発行」、「白陵会名簿の発行」、「ホームページでの情報発信」の4つを柱とした事業を行っておりますが、昨年十一月二十八日、白陵会名簿発行直前に飛び込んできた吉田卓校長先生の突然の訃報に白陵会関係者は大きな悲しみに包まれました。学園創設者、故三木省吾園長先生の最期を思い出さずにはおられない大

変悔しく悲しい出来事でした。長年にわたり白陵の発展に寄与された吉田先生のご功績に深く敬意を表しますと共に心よりご冥福をお祈り申し上げます。

会員諸氏のご協力を得て、五年毎に名簿を発行し、全国各地で活躍されている会員の住所を正確に把握し、年一回ではあります、会報をお届けすることは、あらゆる意味で同窓会活動の原点です。会員の皆様方におかれましては、今後とも一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

母校も、平成二十四年には創立五十周年を迎えます。輝かしい大学合格実績により、今や全国屈指の名門私学に大躍進した白陵ですが、驚嘆すべきその発展の軌跡は、まさに諸先生方と生徒の日々努力の賜物であろうかと思えます。卒業生が各方面で大活躍を続けておられることは、同窓会にとりましては誠に頼もしい限りですが、最近では、市長や国会議員、県会議員、市会議員も続々と誕生し、大活躍されているほか、各期、各クラスの同窓会や、クラブOB会のみならず、東京白陵高校同窓会など、各地域や職域単位で同窓会の輪が広がり深まっておりますことは、誠に同慶の極みに存じます。

白陵高校時代の経験は、今の



理事長  
三木 一正

近事雑感  
—ご挨拶にかえて—

東日本大震災からはや半年近くが経ちました。被災されましただ多くの皆様方に、心よりお見舞い申し上げます。

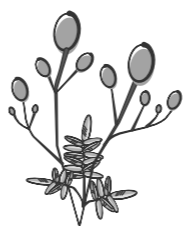
全国各界でご活躍中の白陵会の皆さん、如何お暮らしてでしょうか。幸いにも本学園の所在地はご存知の通り瀬戸内に面しており、災害も少なく、そのうえ山の緑にも囲まれた静かな教育環境は以前にもまして落ち着きをみせています。加えて大学進学成績も向上してきており、喜ばしい限りです。これも先輩たちが創ってくれた路線を後輩たちが引き継いで頑張ってくれている結果に他なりません。

そういえば、この頃、卒業生子弟の入学数が増えてきたばかりか、姉妹校の岡山白陵へ入学してくれるケースも増えてきました。これも学園創立五十周年を来年に控えて、白陵、岡山白陵がいい形で競合し、切磋琢磨している結果ともいえるのではないのでしょうか。大学への進学成績は勿論のこと、教育環境の一つである校舎も先ず白陵が過去の狭苦しさから開放され、随

所にゆとりある空間をとり入れ、総面積は倍近くの耐震構造校舎に生まれ変わりました。次いで、岡山白陵が来年七月の完成を目指して、現在新築工事を進めています。

思えば、五年前白陵校舎建替新築起工式の地固めの儀で力強く四股を踏んでくれたのは当時大相撲の十両へ昇進したばかりの井筒部屋の鶴竜関でした。その鶴竜関が今年六月岡山白陵の地鎮祭でも四股を踏んでくれたのです。鶴竜関は今や大関を目前にする関脇の位置にあり、出世街道を突っ走っているのを聞くにつけ、白陵、岡山白陵の前途を祝福してくれている様に思えて心から喜んでいて次第です。

五十周年を迎える来年前に、より緊張感のある学園創りに勤めるとともに、建学精神のもと、弾みある現場を展開させていきたいと思っております。同窓会の皆様には、何かとお世話になり感謝しております。最後にになりましたが、会員各位のご健勝と更なるご活躍を心からお祈りし、ご挨拶いたします。



第七回白陵会総会…後記

総会準備委員長 宮崎陽太郎

東日本大震災とそれに伴う原発問題。異集団間を通じる言葉をもたず、具合の悪いことは人のせいにし、目先の小利益にはしがみつくと。エリートと言われる人の無責任な言動ばかりが連日露わになる。この国はいつからこうなってしまったのだろうかと思っていたところにこの原稿依頼。遠い昔のようで、何一つ覚えていない…。いや、責任は果たさなければならぬ。

十一月二十一日は少し寒いが快晴となった。十時からの総会にはまだだいたい間がある頃から、校内のあちこちには懐かしい顔。総会の開かれた五階の大教室はほぼ一杯となり、和やかな雰囲気。のなかにも教育空間ならではのほどよい緊張感をともしなう総会となった。

その余韻を味わいながら記念棟に移動。ここでは、希望していた生徒やご父兄も参加できる「公演会」。放送部の生徒が司会をするなか、生徒会長の心のこもった歓迎の挨拶を経て、

桂阿か枝氏（二十五期岸本浩一氏）による熱のこもった落語。その後は、鯛中卓也氏（四十二期で東京藝術大学在学中）によるピアノ演奏。広い会場に透明感のある音色が響き渡った。温まる心。ところが、体は寒い。申し訳ありませんでした。暖房対策を失念していました。しかし、誰一人文句を言う人はいない。さすがは白陵精神。こうなったら「まねき」の「駅そば」とアルコールに頼るしかない。往年の白陵生は停学覚悟？で次の懇親会の会場である体育館に急ぐ。ほどなく会場は熱気に包まれた。さわやかな司会の声。心のこもる挨拶。プロジェクトの学校説明。手品のアトラクション。飛び入りスピーチ。最後に全員で白陵歌。おまけに後片付け。それが終わらぬうち、私は二次会に向け学校を後にしようとする、「おーい、ワシを見捨てるのか」と後片付け途中の校内幹事。もちろん見捨てるしかない。試練が人間をつくる。



校長  
高藤 興哉

陸奥の悲愴を知らず  
満山の蝉

今年の日本はあまりにもことが多すぎ、天候まで不順でした。しかし、蝉時雨の喧騒が周りに満ち始め、逆に気持ち落ちつくのを感じています。白陵会の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。平素は何かと学校に対してご支援をいただき、深く感謝しております。

この三月、46期生は期待どおりの進学成績を残して卒業しました。東京大・京都市大・国立医学部の現浪合格者八六名は過去最高の成績で、合格率で全国六位にランクされました。現役の国立大学（十準大学）合格者数も一三七名に上り、力を示してくれました。これは自ら将来像を描いていく生徒たちのたくましさで、精進が生み出したものです。そういう力がこれからは、単に自分のことだけでなく、大きく社会や日本のことを考える仕事をしてくれることにつながると思っています。

ところで、女子サッカーのW杯優勝はまさに快挙でした。仕事との両立を強いられるなどの悪条件下で、少なからぬ選手が試練の場を求めてドイツ・ア

リカのプロチームに移籍しているなど、今外国に行くことを嫌う企業人・学生が多いのに比べ、日本女性のたくましさや再認識させられました。

悪条件下と言え、今の経済不況ですが、景気回復の波が来るのを待って元気を取り戻そうというのとは、根本的に間違っている。と主張する本に出会った。景気が悪いから正規職員を減らし、若い人の給料を下げても、結局個人消費の総額は増えず、内需は縮小していく。今のデフレ状況は現役世代の人口減少が招いたもので、その減少傾向は当分変わることがない等々。そして著者は提言として、給料の高いベテランが退職するのだから若者の給料を上げるべきで、また、日本にはレベルの高い女性が多くいるのだから、女性が働きやすくなる環境作りを注ぐべきだという。経済は全員の音痴の私でも理解できました。数少ない若者たちが希望を持ってようになり、女性もつと活躍できなければ、日本の将来はありません。

白陵は、苦しい状況の中でも諦めない気力・能力を持つ生徒を育成しようとしています。彼らは迷ったり落ち込んだりしながらもがんばっています。満山の蝉は鳴くこと自体が仕事ですが、彼らは日本の将来も考えてこれからの人生を生きてほしいものだと念じてやみません。

校舎建替寄付金応募状況

平成18年10月～平成23年5月

期生	応募額(円)	期生	応募額(円)
1	475,000	24	150,000
2	1,840,000	25	430,000
3	1,010,000	26	100,000
4	165,000	27	80,000
5	490,000	28	60,000
6	515,000	29	360,000
7	200,000	30	85,000
8	150,000	31	235,000
9	470,000	32	130,000
10	493,000	33	130,000
11	1,170,000	34	240,000
12	660,000	35	120,000
13	590,000	36	90,000
14	265,000	37	125,000
15	930,000	38	41,234
16	90,000	39	140,000
17	360,000	40	115,000
18	405,000	41	110,000
19	295,000	42	170,000
20	270,000	43	40,000
21	330,000	44	10,000
22	60,000	45	40,000
23	130,000	合計	14,364,234

母校飛翔の礎となる新校舎建築に  
今こそ同窓生は熱いご支援を

校舎建替 寄付金募集要項

本寄付金募集は、白陵会が白陵会員を対象として行います。

目標額 5千万円

募金 1口1万円

なるべく複数口のご協力をお願いします。

ただし、1口未満でもありがたくお受けします。

申込方法 同封のゆうちょ銀行払込取扱票によりお払い込みください。

口座番号：神戸01160-9-45040

加入者名：白陵同窓会

※領収書はゆうちょ銀行の郵便払込金受領書をもってかえさせていただきますのでご了承ください。

※この寄付金は減税措置を受けることができます。

個人がその年に支出した寄付金の額が2万円を超える場合には、その超えた金額について、その年の課税所得金額から控除されます。但し、寄付金額が年間所得の40%を上回る場合は40%が限度となります。

寄付金控除額=寄付金額-2千円

減税措置を受ける手続きは寄付された翌年の確定申告で行いますが、その際、領収書及び特定公益増進法人であることの証明書(写)が必要です。この証明書写が必要な方はゆうちょ銀行払込取扱票の通信欄に証明書必要とお書き添えください。

# 白陵軍団全員集合(18)

## ～ 白陵ライダーカップ～

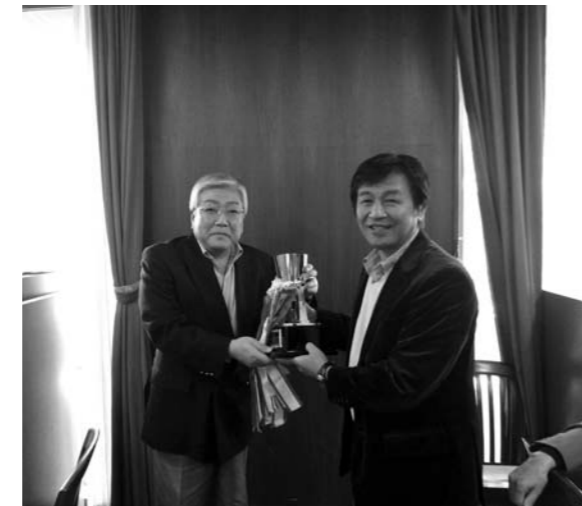
「白陵ライダーカップ」は、ゴルフのクラブOB会対抗戦です。平成九年に野球部と剣道部が開始した対抗戦に、翌年からバレー部が加わり、その後すぐ柔道部そして昨年からはサッカー部が加わって、現在では5チームの対抗戦となっています。ただ実際には、会長はじめ役員の方や帰宅部？のゲストも招待OKというルールもあり、比較的自由でゆるやかな対抗戦として開催されております。

一時期は、各チームお揃いの帽子を作って年2回開催していたこともあり、今回で無事第二十回を迎えることができました。

4月3日(日)栗賀ゴルフクラブにて開催されました第20回ライダーカップは、三月十一日に発生しました東日本大震災の直後でもあり、イベント等の自粛ムードの中、開催を危惧する声もありましたが、母校の生徒会が中心となって募金活動を行っていることを知り、チャリティコンペとして開催することにしました。

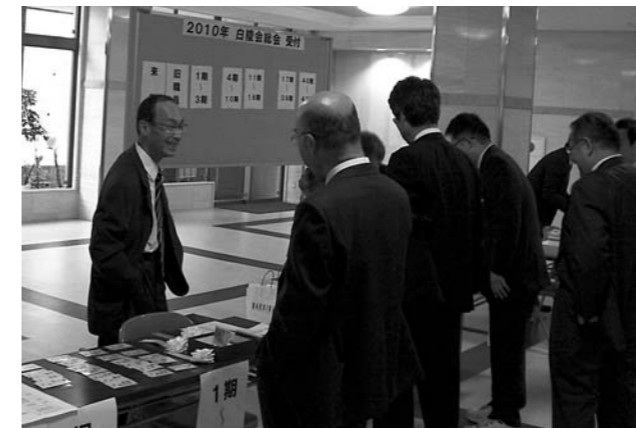
参加者からも義援金を募り、当日集まった十三万円を、白陵高等学校理事室にて斎藤校長立会いのもと、幹事サッカー部OBの坪田奈津樹(十期)さんから生徒会長橋本篤徳さんへ手渡しました。

白陵会ホームページにも、「OBOG会活動」のページに専用のコーナーを設けて、開催情報や結果報告をしておりますので、こちらもまたご覧下さい。



# 総会・桂阿か枝落語会・鯛中氏ピアノ演奏会

## 懇親会



総会受付



総会風景



沼田会長挨拶



桂阿か枝氏落語会



鯛中卓也氏ピアノ演奏会



懇親会 ～楽しい一時～

平成23年 大学入試合格者数

国公立大学					
大学名	23年	22年	21年	20年	19年
東京大	24	21	19	19	24
京都大	24	18	17	15	18
大阪大	20	24	29	25	12
神戸大	9	19	24	19	15
北海道大	2	2	3	7	5
東北大				2	
一橋大	3	4		3	8
筑波大		1		1	2
横浜国立大	2		1	1	3
名古屋大	4	4		3	1
岡山大	6	6	5	6	7
広島大	3	5	5	3	3
九州大	7	2	5	1	1
大阪市立大	2	6	7	3	4
大阪府立大	7	3	3	9	3
その他	74	55	67	44	58
合格者計	187	170	185	161	164
(内医学部医学科)	(52)	(37)	(34)	(25)	(40)

私立大学					
大学名	23年	22年	21年	20年	19年
早稲田大	17	24	20	38	31
慶應義塾大	21	30	24	31	25
上智大	2	1	1	8	2
中央大	13	25	10	12	7
東京理科大	4	12	3	3	8
関西学院大	12	18	16	29	19
関西大	2	10	5	9	5
同志社大	31	27	19	34	30
立命館大	17	22	24	28	31
近畿大	5	1	4	4	7
大阪医科大	3	4	8	4	4
兵庫医科大	10	7	8	7	3
京都薬科大	4	5	4	5	3
神戸薬科大	13	4	4	5	9
その他	36	37	69	41	41
合格者計	190	227	219	258	225
(内医学部医学科)	(23)	(20)	(38)	(26)	(11)
卒業生数	188	171	191	181	171

国公立大学集計に準大学を含む

白陵会役員名簿

役名	期	氏名	役名	期	氏名	役名	期	氏名
会長	3	沼田好道	常任幹事(総務)	18	秋田直樹	常任幹事(総務)	39	猪股久美子
副会長	2	湖中明憲	"(総務)	19	牛尾英樹	"(総務)	39	根木厚剛
"	3	天野泰文	"(総務)	21	河合恵介	"(総務)	40	赤澤剛
"	6	上田喜裕	"(総務)	22	新田智弘	"(総務)	40	山本祥子
理事(研レ委員長)	3	神吉裕資	"(総務)	22	野津康弘	"(総務)	41	山本梨加
"(研レ)	5	橋本義仁	"(総務)	23	中里寛	"(総務)	41	脇田直人
"(研レ)	6	大崎章快	"(総務)	24	奥本光廣	"(総務)	42	賀川拓哉
"(研レ副委員長)	9	村角伸一	"(総務)	24	藤原省悟	"(HP)	42	宮崎はる香
"(総務)	10	吉田達哉	"(総務)	25	多根正明	"(総務)	43	片岡寿平
"(広報委員長)	10	下村康夫	"(HP)	26	大西康記	"(総務)	43	野瀬彩弥
"(広報副委員長)	11	志方正彦	"(総務)	27	山田将義	"(総務)	44	立田裕昌
"(校内幹事総)	11	宮崎陽太郎	"(総務)	28	柿本晴彦	"(総務)	44	三木綾子
"(広報)	15	町田直隆	"(総務)	28	松本守弘	"(総務)	45	三浦学登
"(会計・HP委員長)	19	尾上尚樹	"(HP)	29	岡田康裕	"(総務)	45	向原沙紀
"(総務)	20	石井秀武	"(総務)	29	浜田賢太郎	"(総務)	46	藤本美希
書記(総務)	17	岡野清和	"(総務)	30	上新貴弘	"(総務)	46	宮脇規壽
会計監査(広報)	23	三木健史	"(総務)	31	後藤大悟	校内幹事(広報)	1	芳木健憲
"(HP)	36	近藤理恵	"(総務)	31	酒井雅史	"(総務)	2	大内義博
常任幹事(総務)	1	芝本真須美	"(総務)	31	木下智晴	"(総務)	3	長濱憲雄
"(総務)	1	武田久美子	"(総務)	31	村山稔	"(総務)	3	黒田洋昌
"(総務)	1	正井和野	"(総務)	32	酒井勇人	"(総務)	6	福井孝昌
"(総務)	4	岸本和男	"(総務)	32	小澤有紀子	"(総務)	11	小紫一貴
"(研レ)	4	森崎晴知	"(総務)	33	藤井拓郎	"(総務)	12	畔上昇透
"(総務)	5	塩崎育男	"(総務)	33	北尾由美子	"(総務)	12	山口大吾
"(総務)	7	萩本義郎	"(総務)	34	八尾晋典	"(総務)	12	中村博彦
"(総務)	8	萩本敏彦	"(総務)	34	牧野琢丸	"(総務)	14	久保幸生
"(総務)	8	黒川仁	"(総務)	35	石川美帆	"(総務)	15	村上善弘
"(総務)	9	鄭幸男	"(総務)	35	阪本覚	"(広報)	15	西木一正
"(総務)	10	加藤雅宣	"(総務)	35	中村亮太	顧問(理事長)		三木興哉
"(研レ)	12	吉野太司	"(総務)	35	安田孝弘	"(校長)		斎藤文寛
"(総務)	13	水田堅	"(HP)	36	杉岡央基	"(教頭)	2	川副康夫
"(広報)	13	矢野善人	"(総務)	37	伊賀真紀子	"(前会長)	1	遠山芳一
"(総務)	14	片山安孝	"(HP)	37	亀山信生	"(前会長)	1	黒川
"(総務)	14	竹中邦夫	"(総務)	38	上野紘之	"(前会長)	1	黒川
"(総務)	16	田中正一	"(総務)	38	堀素史			

白陵温故知新

第3回 「若き日の思い出」



3期生・校内幹事 長濱憲雄

前回(第2回)の1期生芳木さんと少し重なりますが、私も「園長バス」では忘れられない思い出があります。園長は授業だけでなく、放課後も補習をさ...  
 自分は情けなくなり、泣きながら帰りました。また、園長は授業を受ける態度とか服装には生徒に厳しい先

生でした。ところが自分と言え...  
 その頃数学の教師に私の尊敬するM先生がおられました。私...  
 「ちょっと集中しすぎました。本だけ吸います」と言っ窓を開け、煙を吐き出されま...  
 今、私もM先生のような授業ができています。うか...



の思い出の1つが運動会です。今のデコは鉄パイプを組み立てる平面デコですが、昔は立体作りでした。後期の補習中に、生徒会が校庭の竹やぶの竹を集め各クラスに分配し、デコ委員がそれを切っ...  
 終了後デコを解体し、運動場に集めて暗くなるのを待ってフアイヤーストームが行われ、園長中心に校歌などを歌って全員で盛り上がったものです。時代の流れと共に白陵の校風も少しずつ変わっていったのですが、私が白陵を愛する心は高校時代と少しも変わらない。

